

平成 24 年度公益社団法人第 3 回理事会議事録

公益社団法人日本地球惑星科学連合

1. 開催日時 平成 24 年 6 月 14 日 (木)
午後 5 時 00 分から午後 7 時 25 分
2. 開始場所 東京大学理学部 3 号館 320 号室
(東京都文京区弥生 2-11-16)
3. 出席者 理事数 20 名
出席理事 11 名 (定足数 11 名 会議成立)
出席監事 1 名
オブザーバー 6 名
4. 議長 理事 津田 敏隆
5. 出席役員 理事 北 和之
理事 津田 敏隆
理事 川幡 穂高
理事 佐藤 薫
理事 奥村 晃史
理事 中村 正人
理事 小口 高
理事 成瀬 元
理事 浜野 洋三
理事 畠山 正恒
理事 渡邊誠一郎
監事 松浦 充宏
6. 出席オブザーバー
固体地球科学セクションプレジデント 大谷 栄治
地球生命科学セクションプレジデント 北里 洋
地球人間圏科学セクションプレジデント 氷見山幸夫
大会運営委員会副委員長 岩上 直幹
国際学術委員会副委員長 加藤 照之
男女共同参画委員会元委員長 富樫 茂子

午後 5 時 00 分、理事の定数に足る出席があったので、会長津田敏隆は議長席に着き、開会

を宣言し、議事に入った。

7. 報告事項

(1) 情勢について

第1期浜野理事、第2期、第3期木村学理事に引き続き第4期津田理事が会長として2年間新体制で活動していく旨、津田会長より説明があった。

津田敏隆会長、木村学副会長、中村正人副会長、川幡穂高副会長、理事としてウォリスサイモン、小口高、奥村晃史、北和之、佐藤薫、杉田倫明、瀧上豊、竹村恵二、田近英一、成瀬元、西弘嗣、畠山正恒、浜野洋三、古村孝志、松本淳、渡邊誠一郎の20名の体制で2年間活動していく。

(2) 2012年大会報告（浜野理事）

浜野理事より2012年大会の流れが説明された。投稿数は2011年度より200程度少なかったが、東日本大地震のセッションで増加した分とみなし差し引いて考慮すれば投稿数自体は安定している。2012年大会のスケジュールが遅れた原因を考慮して、システムが大きく変更になるような運営方針の変更はセッション提案が終わるまでにクリアにしてアナウンスする必要性や、プログラムの細かい修正は期限を区切り、スケジュールに影響しないようにするなど、来年度に向けての注意点があることも報告された。

(3) 委員会報告

大会運営委員会（資料P30）（北理事）

14日午前中に反省会を開催した。参加数は増加している。今年度採用したポスター発表の際の3分間のオーラル発表は7割が利用しており、それなりに機能していたと報告があった。発表方法に関しては一人一人がPCにつなぐやり方ではなく、時間が限られているのでまとめてやる必要があるという意見も報告された。部屋数は14から18に増えている。外国人は36か国から200人弱であり人数は昨年度とほぼ同じである。但しこの人数には海外住所の参加者のみで、日本にいる外国人は含まれていない。

2012年度は宇宙惑星科学セッションより中本泰史先生2013年度は大気水圏科学セッションより河宮三知生先生がプログラム委員長を担當下さるので、順番として2014年度のプログラム委員長は地球人間圏科学より選出してほしい旨を、氷見山セッションプレジデントに依頼された。1年間は2013年度の活動を見てもらうことになるので、7月中旬までに推薦してもらい、副委員長として活動してもらいたい。

大会開催期間は現在と同様、日曜日～金曜日開催を希望する人が多い。土・日曜日はパブリックのみにし、月曜日～金曜日と開催日程を短縮することを希望する人も多いが、とりあえず2013年度は5月19日（日）から24日（金）に開催することが満場一致で承認された。国際力をつける為にプレゼンテーションは日本語でもPPTは英語で作る、外国人のコンピーナーへは必ず英語でアナウンスする等、英語化を強化していく必要性も確認された。理事としては主担当として浜野理事 副担当として北理事が担当する。

財務委員（資料P5）

西理事が欠席の為、津田会長が説明された。理事としては西理事、北理事が担当する。

総務委員会（資料 P5）

大村元委員長、古村新委員長とも欠席の為、津田会長が説明された。

理事としては古村理事、成瀬理事が担当する。メンバーは各セクションから選出してもらう予定である。

広報普及委員会（資料 P8）

田近委員長が欠席の為、津田会長が説明された。

理事としては田近理事 杉田理事 松本理事が担当する。

環境・災害担当委員会（資料 P11-18）（奥村理事）

松本委員長のもと、理事としては奥村理事、松本理事が担当する。今後連合のHP上で活動報告をしたり呼びかけをしていくことになる。

男女共同参画委員会（資料 P19-27）（富樫元委員長）

小口千明委員長 坂野井健副委員長 小川佳子副委員長の体制で活動していく旨説明された。理事としては、中村理事 竹村理事が担当する。

アンケートの回答率を高める必要性和学協会連絡会への参加要請を今後とも継続して行うことが確認された。

教育問題検討委員会（畠山理事）

新学習指導要綱改定、教員免許取得の問題、採用の問題などについて理数系学会で対応を考えている旨説明があった。又科学オリンピックへの支援として2013年地理オリンピックの京都開催、2016年地学オリンピックを三重県で開催などについて説明がなされた。地学オリンピックの寄付金を集める時には公益社団法人である連合を通じて集めさせてもらいたい。2000万円から3000万円寄付金を集める必要があり、文部科学省は集めた寄付金の額と同額を支援してくれることから1000万円から1500万円の寄付を募る予定である。

オリンピックは引き続き瀧上理事が行う。

理事としては主担当として畠山理事、地学オリンピック担当として瀧上理事、大学教育担当として渡邊理事が担当する。

情報システム委員会（資料 P28-29）

篠原育委員長、今西和敏副委員長、西村光史副委員長の体制で活動することが津田会長より説明された。理事としては古村理事と小口理事が担当する。来年度は大会会場での無線LAN環境について向上させるよう要望があった。

国際学術委員会（資料 P36）（加藤副委員長）

2012年2月にAGUとMOUを締結した。お互いの会員であれば会費を払わなくともメンバー料金で参加できるという条項に少し注意が必要であるが、すでにMOUを締結しているのでAGUのFall Meetingから適応できるようAGUのページに掲載してもらうようウォリス理事よりAGUに連絡してもらうことになった。AOGSは間に合わないであろうから来年度の連合大会に間に合うようにMOUの内容を見直す必要があることが確認された。又、2014年

7/28-8/1にAOGSの札幌大会が決定しているので連合としてサポートする必要があることも説明があった。

ウォリスサイモン委員長 藤本正樹副委員長、加藤照之副委員長の新体制で活動していく。理事としては主担当としてウォリス理事、副担当として木村理事が担当する。

キャリア支援委員会 (佐藤理事)

理事としては佐藤理事、渡邊理事が担当する。

8. 審議事項

第1号議案 連合大会開催日程について

5月19日から24日に開催されることが満場一致で承認された。

第2号議案 国際対応・方針について

AGU、EGU、AOGSと連携をとっていくことが確認された。

第3号議案 大気海洋・環境科学セクション名称変更について

「大気水圏科学セクション(Atmospheric and Hydrospheric Sciences Section)」に改称することが社員総会で認められたが、欠席した社員に現在追認を依頼中である。セクション名は変更可能であるが、登録区分に関しては全員の追認書類がそろってからになる。

第4号議案 ジャーナルについて (川幡理事)

- 1) 6月14日16~17時に開催された第1回科研費成果公開促進費対応臨時委員会の幹事会の結果が報告された。この幹事会では、これまでの経緯、EPS運営委員会議長による「EPSのこれまでと現状」、これらの情報をふまえた議論、幹事会の結論を出した：「まず、JpGUとしてopen-accessのe-journalを発行することが再確認された。次に、EPS運営委員会議長による要請を受け、①JpGU主体のジャーナルは、既存の学会誌との競合を少なくするため、Reviewとともに連合幕張大会での発表(4,000発表)を主体としたものを扱うという方針を軸に検討することとなった。一方、②EPSの後継を主体としたLETTER重視のジャーナル(既存ジャーナルとの競合をさけるように留意する)も準備し、これにはJpGUからの編集委員も参加することとなった。科学研究費補助金への申請に関しては、二つのジャーナルを包括したものとして提出し、JpGUが申請主体となるもののEPSともすりあわせを行うこととなった」。幹事会による議論が説明され、以上のような結論が了承された。
- 2) 北里セクション・プレジデントより学術会議の動向情報に基づき、本年度の科学研究費補助金の募集に提案を出すべきとの意見が表明され、これも了承された。
- 3) 今後の手順としては、7月前半までにJpGU会長・副会長がEPS関連5学会の会長と会合を持ち、それを基礎に日本地球惑星科学連合傘下のすべての参加学協会に情報を伝え、新ジャーナルへの参加に関する議論を広げていくこととなった。
- 4) 科学研究費補助金提出にむけた実務的な対応とともに、将来に向けてのビジョンも併せて議論することとなった。新ジャーナルの刊行について、科学研究費補助金制度

が終了した後も、独り立ちして順調に発展するような方策を考えることが確認された。
第5号議案 その他（会費および大会参加登録費について他）

財政は必ずしも安定していないので、会費か参加費かの値上げを考えなければならない段階にきている。何のための連合なのかという基本にたちかえり次回以降の理事会で議論していくことになった。

浜野理事より地学オリンピック主催の小・中学生 自由研究コンテスト 2012 に連合に共催依頼があった。会長名で審査員も出すことになる。

氷見山セクションプレジデントより地理関連のイベントにおいて後援及び日本地球惑星科学連合会長賞を作ってほしいとの依頼があった。この場では基準などが決められないので、教育問題検討委員会で議論を行い、これを受けて検証制度担当理事の中村理事と成瀬理事が中心となって理事会で検討していくことになった。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。（午後7時25分）

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席議事は次に記名・押印する。（捺印欄配布時省略）

平成24年6月14日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第3回理事会

出席理事	津田	敏隆	印
出席理事	川幡	穂高	印
出席理事	佐藤	薫	印
出席理事	奥村	晃史	印
出席理事	北	和之	印
出席理事	中村	正人	印
出席理事	小口	高	印
出席理事	成瀬	元	印
出席理事	浜野	洋三	印

出席理事 畠山 正恒 印

出席理事 渡邊 誠一郎 印